

平成23年度病虫害発生予報第9号

平成23年10月6日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
野菜	キャベツ、 ブロッコリー	軟腐病	平年並	やや多い
		黒腐病	平年並	やや多い
		べと病	平年並	やや多い
		コナガ	平年並	やや少ない
		ハスモンヨトウ	平年並	やや少ない
	ネギ	黒斑病	—	やや少ない
		さび病	平年並	平年並
		ネギアザミウマ	平年並	やや少ない
		ネギハモグリバエ	平年並	やや少ない
		シロイチモジヨトウ	平年並	平年並
花き	シバ	葉腐病(ラージパッチ)	平年並	やや多い
		さび病	平年並	平年並
		スジキリヨトウ	平年並	平年並
		シバツトガ	平年並	平年並

気象予報(抜粋)

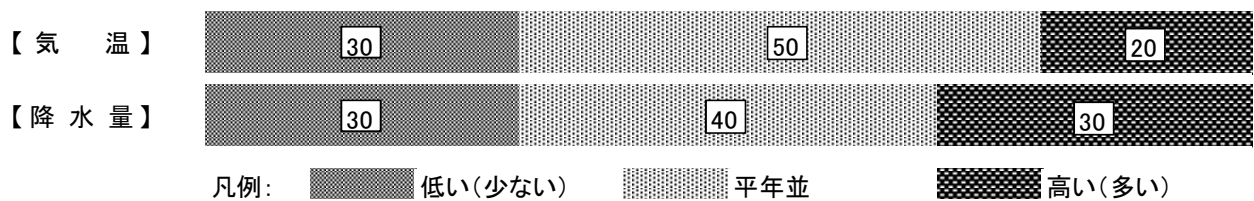
1か月予報(10月1日~10月30日:9月30日、広島地方気象台発表)

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

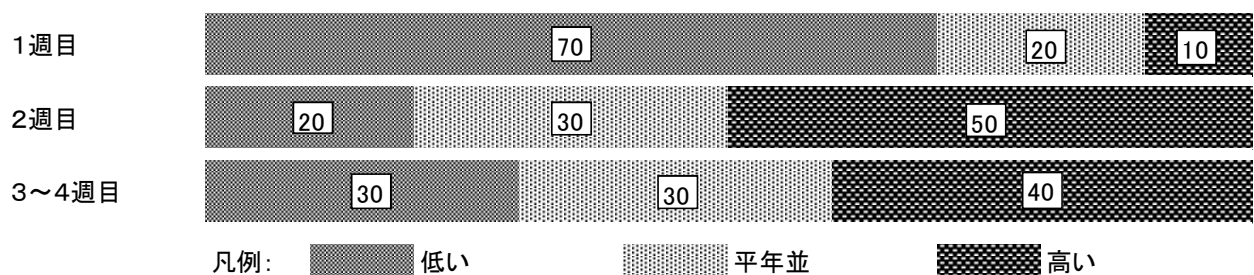
天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並みの確立50%です。

週別の気温は、1週目は低い確率が70%です。2週目は高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[キャベツ、ブロッコリー]

1 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。
- イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。
- イ 圃場の排水に努める。
- ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つてできるだけ早く薬剤散布する。
- エ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水和剤）1,000倍液、ドキリンフロアブル800～1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。
- オ ブロッコリーの防除薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。
- イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。
- イ ほ場の排水に努める。
- ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つてできるだけ早く薬剤散布する。
- エ 肥料不足になると多発しやすいため、肥料切れしないよう注意する。
- オ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水和剤）1,000倍液、ドキリンフロアブル500～1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。
- カ ブロッコリーの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水和剤）1,000倍液、キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

3 べと病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地ほ場の一部で本病の発病が認められている。
- イ 本病は気温が比較的低温、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア キャベツの防除薬剤は、ヨネポン水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など）400～600倍液などを予防散布する。
- イ ブロッコリーの晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすい。
- ウ ブロッコリーの薬剤防除は、中～晩生品種では、リドミルMZ水和剤1,000倍液を使用基準（花蕾形成前まで、但し収穫21日前／3回以内）に注意しながら、10月中旬～11月上旬頃の発生初期に10日間隔で2～3回散布する。

4 コナガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における幼虫の発生量はやや少ない。
- イ 県予察ほ場（北栄町）におけるフェロモントラップによる成虫の誘殺数はやや少ない。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア キャベツでは結球開始期に、アタブロン乳剤2,000倍液、カスケード乳剤2,000～4,000倍液などを散布する。
- イ ブロッコリーでは花蕾抽出期までに、トルネードフロアブル1,000倍液、アタブロン乳剤2,000倍液などを散布する。
- ウ 上記生育期以降に発生がみられる場合は、キャベツ、ブロッコリー共に、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液、プレオフロアブル1,000倍液などを散布する。

5 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。
- イ 現地調査ほ場におけるフェロモントラップによる成虫の誘殺数はやや少ない。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫のうちに防除を行うのが効果的である。ほ場内を観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。
- イ キャベツでは、若齢幼虫期にアタブロン乳剤2,000倍液、ノーモルト乳剤2,000倍液などを散布する。中～老齢幼虫が見られる場合には、トルネードフロアブル2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液などを散布する。
- ウ ブロッコリーでは、カスケード乳剤4,000倍液、プレオフロアブル

1, 000倍液などを散布する。

[ネギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 本病は平均気温25℃前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足になると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

イ 防除薬剤は、ロブラール水和剤1,000倍液、ポリベリン水和剤1,500倍液などを散布する。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生は認められていない。

イ 本病は、秋季に比較的低温で、降雨が多い場合に発生が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

発病前の10月中旬頃（平坦部）からジマンダイセン水和剤600倍液を10日間隔で2～3回散布する。その後の発生には、オンリーワンフロアブル1,000倍液、ラリー乳剤4,000倍液などを散布する。

3 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 県予察ほ場（北栄町）における発生量はやや少ない。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、ランネート45DFの1,000倍液、ハチハチ乳剤1,000倍液、ウララDF1,000～2,000倍液などを、7～10日間隔で10月中旬頃までローテーション散布する。

4 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アグロスリン乳剤2, 000倍液、オンコルマイクロカプセル1, 000倍液などを散布する。

5 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 現地調査ほ場でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数はやや少ない。

ウ 県予察ほ場（北栄町）でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並である。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫による葉先の被害がみられる場合は、スピノエース顆粒水和剤5, 000倍液、トルネードフロアブル1, 000倍液などを散布する。

[シ バ]

1 葉腐病（ラージパッチ）

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地生産シバほ場の一部で発生が認められている。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

本病は予防散布が効果的であり、防除薬剤はグランサー水和剤1, 000倍液、センチネル顆粒水和剤2, 500倍液などを用いる。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

発生初期にバシタック水和剤75の500～1, 000倍液、バイレトン乳剤2, 000倍液などを散布する。

3 スジキリヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDFの2,000～3,000倍液、
ダイアジノン乳剤40の1,000倍液などを散布する。

4 シバツトガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDFの2,000～3,000倍液、
ダイアジノン乳剤40の1,000倍液などを散布する。